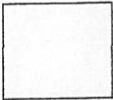


2024年度第二次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)			
博士課程前期課程	乳幼児教育研究領域	試験科目 専門科目	受験番号 番

解答記入不可
↑

問題1 幼児期の「自己中心性」について説明し、援助者に求められる関わりについて論ぜよ。



3枚中

1

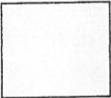
2024年度第二次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)

博士課程前期課程	乳幼児教育研究領域	試験科目 専門科目	受験番号 番
----------	-----------	--------------	-----------

解答記入不可

↑

問題2 『保育所保育指針解説』(厚生労働省平成30年)の第1章総則(1(1)エ)には、保育所の保育士に求められる、発達援助、生活援助、保育環境の構成、遊びの豊かな展開、関係構築という保育に関わる5つの知識及び技術が示されている。これらの保育の技術がどのように実践に生かされるのか、1つの技術を選び具体的事例を示しながら論じなさい。



3枚中

2

2024年度第二次教育学研究科 入学試験問題(直接解答)			
博士課程前期課程	乳幼児教育研究領域	試験科目 専門科目	受験番号 番

解答記入不可

↑

問題3 「言葉の獲得」が子どもたちに果たす役割について論ぜよ。

3枚中

3

2024 年度 第二次 教育学研究科入学試験問題

博士課程前期課程／乳幼児教育研究領域／専門外科目（解答例）

解答例

[問題 1] 解答例(採点のポイント)

(1) 基本的理解（定義の正確さ）

- ・ピアジェの理論に基づき、「自己中心性」を他者の視点を十分に理解できない認知的特徴として正確に説明しているか。
- ・「三山課題」など代表的な実証研究に言及しているか。

(2) 概念の位置づけ

- ・前操作期（2～7 歳）の特徴であることを明示しているか。
- ・自己中心性を「未熟さ」ではなく「発達上の通過点」として位置づけているか。

(3) 発達の意義の説明

- ・脱中心化（decentration）への移行を示す過程として論じられているか。
- ・他者理解・社会的認知の基盤となる発達の意義を捉えているか。

(4) 援助者に求められる関わり

- ・自己中心的な言動を否定せず，発達段階に即した関わりを提示しているか。
- ・視点取得を促す具体的手立て（協同遊び，絵本，対話など）が挙げられているか。
- ・援助者の役割（受容，言語化の支援，仲立ちやルール形成）が適切に述べられているか。

(5) 具体例・応用

- ・三山課題や日常場面（例：かくれんぼで「自分が見えていないから相手からも見えないと思う」など）を挙げて説明できているか。
- ・保育・教育実践への応用（仲間との遊びでのトラブル調整，ルールの共有など）が述べられているか。

(6) 論理性・表現

- ・「説明（定義）→意義→援助のあり方」という論理的展開になっているか。
- ・専門用語（自己中心性，前操作期，脱中心化など）を適切に使用し，誤用がないか。
- ・「未熟さ」との混同や否定的評価に偏らず，発達の意義を含むバランスある記述になっているか。

[問題 2]

保育所保育指針解説第1章では、保育所の保育士の保育に求められる主要な知識及び技術として以下の5つが挙げられている。

- ①これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術。
- ②子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自らが生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術。
- ③保育所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術。
- ④子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術。
- ⑤子ども同士の関わりや子どもと保護者の関わりなどを見守り、その気持ちに寄り添いながら適宜必要な援助をしていく関係構築の知識及び技術。

例えば、⑤の関係構築の技術では、保育士は子どもの特性、家庭的背景、状態にかかわらずその子どもと愛着関係を構築し、その関係や保育士自身の存在を媒体としてその子どもと他児の関係をつなぐ（～2歳頃）。またその子ども、他児、保育士は、視覚的に確認できる距離間でモノ（例：ボール等）を媒体としながら遊びを共有する（～3歳頃）。4歳以降は、保育士も遊びに参加しながら、子どもの関係をつないでいた「モノ」を「ルール」に置き換えていく。子どもは、徐々に視覚的な手掛かりを有しない「ルール」のみを共有しながら遊ぶことが可能となる。その力は、やがて社会の「ルール」を守りつつ他者と関係を紡ぐ社会性の一つの基盤となる。

[問題 3]

- ①言葉には認知や思考の役割があります。子どもたちは言葉によってものごとを理解し、整理していくことで、はじめはカオスのようだった世界が意味によって秩序づけられ、抽象的にものごとを考えられるようになります。その力は記憶や学習の支えになり、新しい知識を得たり理解したりすることに繋がります。
- ②言葉を獲得することで他者とのコミュニケーションを図ることができるようになります。自身の欲求や感情を伝えるだけでなく、相手の考えを理解することで一層コミュニケーションが深まり、社会的な規範を共有することができます。
- ③言葉によって自己の行動を抑制したり促進したりする、調整機能が働きます。外に向けた言葉(外言)から、心の中で使う言葉(内言)に発展することで、自分の行動をコントロールできるようになるのです。
- ④言葉には自己表現の役割があります。自分の思いを他者に伝えることでストレスを軽減させたり安心感を得ることもできます。また他者の表現に共感することで、互いの共有関係も育まれます。こうした情緒の安定の中で子どもは自分を「わたし」として認識し、自己を形成していくのです。

2024 年度 第二次 教育学研究科入学試験問題

博士課程前期課程／乳幼児教育研究領域／専門外科目（出題意図）

出題意図

[問題 1]

本設問は、発達理論（特にピアジェ）の理解に加え、それを教育・保育実践へと結びつける思考力を測ることを目的とする。幼児期の「自己中心性」を単なる欠陥ではなく、発達上の必然的段階と捉え、その特徴に即した援助のあり方を論理的かつ具体的に論じられるかを評価する。

[問題 2]

単に保育学、幼児教育学の知識を有しているかの確認にとどまらず、その知識を実践と関連付ける思考を有しているか確認する。この課題では、保育所保育指針解説に示される事項と実践の関連を理解し、論じる力を捉える。

[問題 3]

言葉の獲得は、子どもの発達において大変重要な役割を果たします。単にコミュニケーションの道具として狭義にとらえるのではなく、言葉が子どもの人格形成や自己肯定感を育て、「私が私である」という生きる上での基盤となっていることを理解できているかどうか。「言葉」を持つ動物は人間だけです。人間を人間たらしめているのは「言葉」であることを、きちんと理解できているかどうかを問う問題です。